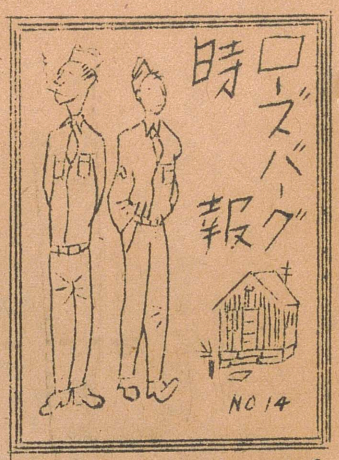
ローズバーグ時報



ローズバーグ日本人収容所知事局
九月十日 木曜日
第十四号 発行

露獨接戦現況

スターリングラード西門防禦赤軍ロ戦陣地抛棄

ノオンボック将軍指揮の獨逸戦車隊はスターリングラード西門近くと赤軍した。昨夜の激戦に於て市外西部二村落の重要陣地を赤軍が抛棄した結果である。尚赤軍はノボロシスク軍港並にグロズニイ油田近くモズドック前線に獨逸軍を阻止した。獨逸軍死傷多しとモスカウ発電U.P.は報じて居るが一方ベルリン所報に因れば、ノボロシスク軍港は獨逸が九月六日完全に占領入城したと発表した。

歐洲戦舞台一般

英戦報U.P.接受所報では米国戦車隊活潑化シロメル将軍頻る自重すと傳へ又紐育A.P.所報では和蘭並にルクセンブルグ方面に反獨運動蜂起し獨逸弾壓に狂奔中といふ。

○南太平洋舞台

ソロモン及モースビー方面

華府U.P.所報では米国空軍は最近ギゾー島(ニュージョージア群島の一島)に上陸敢行せし日本陸戦隊を爆撃し更にワダカナル島に最近上陸せし日本陸戦隊をも捜索攻撃した。又濠洲マクアーサ統帥部は次の如く発表した。

モースビイ軍港防禦の濠洲軍は再び陣容を整調して日本軍が最近進駐せるマイウラ陣地に逆襲の準備成る。

米国戦死傷約一萬三千

米国海軍戦傷者家族に報告あり。九月十三日より同三十日までの合計数四百三十七名　其内譯は海兵、要塞兵、コーストガードを合み百〇三名戦死、十七名負傷、三百十七名行衛不明也。

右を合み戦傷者大合計一萬三千九百十名となり死者三千六百九十八名、傷者九百四十三名、残余は行衛不明であると海軍省で発表した。

知事局より

一、送金に関する件

「今後我々への送金は當地へ留置くよう」との交渉に対し、管理人ヒューズ少尉より左の通知がありました。

『今後の分は留置く事とす、但し一人五百弗を限度とし又全額一萬弗を限度とす』

右によると米以上は華府へ送附する事になりますから、今後各自が一時に多額の取寄せをせず月々入用の程度にて取寄せ、又到着分は直ちにキューポンで受取りの手續をなさるよう。又金融的に當地留置きのチャンスを作る為現在多額の資金を所持する人は家族の扶助料として一時引出し送金するも一方法です。

二、食事に関する件

某中隊より知事局へ『他中隊員来りて食事す、甚だ迷惑せ』の苦情が来ました。是は今まで絶対に禁じ入れて居る事ですから隊員も炊事係も共に御注意願います。

三、衛生に関する件

各中隊のコンマンディング、オフィサーより配布の班内外の掃除に関する注意事項は大体実行中なれど一層勵行願ます。尚右注意書の衛生に関する部分は各自自身に関する事故既に十分実行中と信じますが、健康水準以下なるもの及既に傳染性諸病を有する方は自發的に医師の治療及注意法を厳守なさる様、此際改めて御注意を喚起する次第です。

四、病院訪問のパス

各中隊事務所で貰って下さい。

○スケートを拾ふ　三日程前からブルーのスケートを第十三中隊第九寮に置忘れた者あり目下同所に保管中

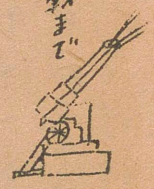
社告

野球其他運動の記事を投書して下さる方は其記事を石崎運動部長の手を通さるようお願します。

○正誤　第十三号所載入隊志願者の中、星井太郎とあるは黒井太郎の誤。

世界大戦年表

パール港攻撃よりブラジル宣戦まで



◎十二月七日（一九四一年）
日本 パールハーバー、フイリツピン、
ウエーキ島、グアム島攻撃。
〃 廿四日 ウエーキ島陥落。
〃 廿五日 香港陥落。

一九四二年

◎一月二日、 日本マニラ占領。
十日、 日本蘭領印度侵入。
廿三日、 日本新ブリテン侵入。

◎二月十五日、 シンガポール開城。
廿四日、 米国日本占領中のウエーキ島を襲撃す。

◎三月四日、 日本ジヤバに侵入。
廿七日、 米国、豪領マーカス島襲撃。
十七日、 マツカーサー オーストラリヤに到着。
廿五日、 日本アンダマン島占領。

◎四月九日、 バツタン半島日本軍に占領さる。
十日、 印度戦後に印度に独立を許すのサー・スタツホード・クリツプスの提案を拒絶す。
廿五日、 米国派遣軍 新カレドニヤ占領。

◎五月六日、 コレギドアー陥城。
九日、 聯合軍コーラルシーに日本軍を破る。

◎六月一日、 メキシコ枢軸に対宣戦。
三日、 日本ダツチハーバー襲撃。
六日、 米国軍ミツドウエー島より日本軍を撃退す。
十三日、 日本アツツとキスカ島占領。

◎八月七日、 米国マリーン、ソロモン攻撃。
廿三日、 ブラジル宣戦。

八卦による平和は一年後

神卦
離 下乾 上上火
天火同人

人ト野ニ同フス亨ル
大川ヲ渉ルニ利シ
天モ火モ其一性ヲ同クシテ共ニ上昇シ
平青ニ地上ヲ照ラス 同氣相求メ
相和シテ共ニ事ヲ行フ

大川ヲ渉ルニ利シトハ危険ヲ乗リ越ス事ヲ得ルノ意。
人ト郊ヲ同フス悔ナシ
是マデハ一族ヤ一城内デ相結ビ相親シンデ居タニ過ギナカツタガ其ノ同盟ガ漸ク郊町ナ城外ニモ及ブニ至ツタノデ最後ノ目的ニ向ツテ進ミ進ンダノデアル
平和ハ猶ホ一年ノ後ナラン

兵語だより

(一)この週から陸軍支給の手紙用紙を使ふ事になつた。(二)封筒はいらぬ。(三)たゞもと封筒になる。(四)世界の四計紙で便利。(五)従来一ケ月も日本手紙はかかつたが、今二週間位で、こゝへ来るさうだ。(六)で、これから、ママは日本手紙をおくれ。(七)ゆうべママの若い時分の夢を見たつケ。いゝ夢だといいがね。ワシは寝言をいつたさうだ

(I)We've got to use the writing paper provided by the Army from this week. (2)We need no envelop in this paper.(3)When folded, it serves as an envelop. And it is handy as it is a ruled paper of 24 lines.(4)It took usually more than one month before a Japanese letter reached us.(5)But now we could get it in about two weeks, I hear.(6)So, mama, you'd better write me in Japanese hereafter.(7)Last night I dreamed about you mama in your younger days. It is a good dream, I hope. They say I talked in my sleep.

第十三大隊 人名録

第十一中隊 第九班

愛媛縣、井上国義、出野順造、
飯田 董、
山梨縣、梶原 肇、降矢喜造、
三重縣、板倉字一郎、
大分縣、近藤市九郎、
富山縣、中島菊太郎、
山形縣、阿部豊治、
群馬縣、青木儀市、
福岡縣、横溝嘉平次、神田 勝、
鹿児島縣、朱雀野有造、
愛知縣、加藤 亘、服部関三郎、
熊本縣、赤星真月、安部方記、
大阪府、水村一雄、
岐阜縣、野口虎造、
山口縣、桑月文方、
滋賀縣、廣津幸吉、村本九一、
廣島縣、安孫子義孝、
奈良縣、川本徳四郎、力石佐六、
和歌山縣、梅敷東一、藤坂恵平、
石田新九郎、助金政二助、
石田治三太、
林野重昭、
砂川益井、